様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 6 月 10 日現在

機関番号：３４５０６
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2008～2010
課題番号：２０５３０３９７
研究課題名（和文）支援・補完産業としての卸売業の新たな産業特性に関する研究
研究課題名（英文）
The Study of New Industry Characteristics in Wholesaling as Supporting Industry
研究代表者
西村　順二（NISHIMURA JUNJI）
甲南大学・経営学部・教授
研究者番号：６０１９８５０４

研究成果の概要（和文）：
卸売業におけるその産業特性の考察を、内外にわたる複数の事例及び一次データや二次データを検討することから行い、その構造特性とその変化のメカニズムに関するモデル（取引の連動性モデル）の抽出を行った。そこでは、仕入れ取引と販売取引の仕入れ適応と顧客適応志向から、両取引の収斂が交錯するメカニズムが存在し、その結果として多様な流通機構が生成されることが説明された。
さらに、流通機構全体の変動について考察が進められた。戦後50年の二次データ（物価統計調査報告書、商業統計表、工業統計表など）を用いて、時系列分析が行われている。そこでは、卸売流通構造と小売流通構造の連動関係が考察されている。従来は、日本型流通機構の非効率性が指摘され、その効率化へ向かう中で卸売業の排除や卸売流通を経由しない流通経路の成長が指摘されてきていたが、本研究ではむしろ卸売流通の役割が、日本の流通機構の発展・成長の過程において、変わらず重要な役割を果たしていることが、近年の流通構造の特性でもあるということが示されている。

研究成果の概要（英文）：
In this research we focus upon the wholesaling and analyses the characteristics of wholesaling as one industry. In research activities we present the dynamic model of distribution：synchronization of trades in the wholesale buying and selling. This model presents the solution of research problems of wholesale-specific explanation, refers to the dynamism of distribution, and shows us the trade-off relationships of micro and macro perspectives.
This conceptual framework ： synchronization of trades gives academic circles of marketing, the good contributions. It is the reason for being of wholesaling industry as supporting industry. We focus upon the relationships between wholesaling and retailing. By analyzing the ratio of wholesaling sales to retailing sales (W/R ratio) in the long time range, we can identify the changes of relationships between wholesaling and retailing. Using modified date, W/R ratio comes up for 50 years. In Japanese distribution system wholesalers are eliminated from the channel and manufacturers and retailers aims at direct trade with each other. But this study presents the existence of wholesalers and wholesaling in the Japanese distribution system still. Wholesalers play a certain of rolls in the channel and distribution still. That is the supporting roll of wholesalers to the retailers and manufacturers.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	1,300,000	390,000	1,690,000
２００９年度	1,000,000	300,000	1,300,000
２０１０年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：経営学・商学
キーワード：卸売業、卸売流通、流通構造、マクロ流通、流通産業、W/R 比率

１．研究開始当初の背景

流通構造の変動に関する研究において、その小売業段階の構造変動を説明する概念やモデルは散見される。また、歴史制度的な視点から、流通の構造変動を説明する研究成果もみられる。しかしながら、もとより流通を構成する要素には、小売業者だけではなく卸売業者も含まれてくる。さらには物流業者などの流通支援業務を行う企業群も含まれてくる。また、製造業者にとっても、販路の確保・管理と言う意味で流通段階へのコミットメントは必要である。SPA などに代表される製造小売業などがアパレル業界で中心的なビジネスモデルになってきていることからも、製造業者の流通業務への関与を考察する重要性・必要性はきわめて高いと言える。

また、歴史制度的な変動過程の分析は、一定の研究成果をあげているが、やはり非常に長いレンジでの検証が必要であり、ややもすれば、レジティマシーの問題となってくる部分も大きい。むしろ、中短期的な流通の変動を考える場合に、新たな動態モデルを想定することは、これまでにない研究上の新規性を持つと考えられる。

このような研究課題上の背景から、流通という「業」には、多様な経済主体が関与し、それらを結びつける取引関係から流通の動態を考察することは有効であると言える。そして、本研究では中短期的な視点から、取引モデルとして流通の動態を捉えていくことから、その研究課題は大きな意義のあるものであると考えられるのである。

２．研究の目的

上記の問題意識から、その中心的役割を果たすことができる有効な機関・経済主体として卸売業者を想定する。この卸売業者を分析対象として、卸売流通の中間流通としての機能メカニズム：中間流通における仕入と販売の取引連動性概念を導出することを先ずは目指し、その上でその取引関係の産業レベルでの連関関係を考察することを目的とした。

３．研究の方法

まずは、既存研究から流通の動態を分析するものをピックアップし、レビューする。その上で、流通の動態に関するモデルを導出する。それは、仕入と販売の「取引連動性概念」である。このモデルの現実妥当性やモデルとしての頑健性などが、定量分析（二次データや一時データに基づく統計分析）や定性分析（インタビュー調査や事例研究）を通して検証された。

その上で、このモデルに基づき、流通段階の動態性が考察された。此処での研究アプローチは、二次データに基づく卸売業段階と小売業段階の関連性の確認である。主に、商業統計表のデータに基づき、50 年タームでの変動の関連性が考察された。

４．研究成果

本研究の成果は、大きくは二つ挙げられる。第一に、流通の動態を説明する枠組み：仕入と販売の取引連動性概念を導出し、その検証を行ったことである。そして、第二に、この概念を利用して、流通のマクロ構造からみて卸売業が、他の流通業に対して支援関係・補完関係などの関係性を有していることを確認できたことである。以下、それぞれの研究成果を提示しておく。

まず、仕入と販売と取引連動性概念についてである。これは仕入れにあわせて販売が変化し、販売に合わせて仕入れが変化するといものである。この連動関係を取引活動を通して、卸売業者が最も典型的に実現し易いと考えるものである。この場合、品揃え局面における仕入取引と販売取引の連動、流通機能局面での仕入取引と販売取引の連動、そして取引空間局面における仕入取引と販売取引の連動が区分される。品揃え局面での仕入取引と販売取引の連動性は、さらに量的なマッチングと質的なマッチングの二つに分けられる。本研究では、この量的・質的側面から見た品揃えの取引連動性が主に分析されている。中間流通業である卸売業者が、仕入れ取引局面でその品揃え形成をする場合に、販売局面での品揃えを考慮するし、販売局面での品揃えを形成する際に、仕入れ局面での品揃え形成を意識することになる。これらを連動性を高めてマッチングできれば、流通効率は上がり、中間流角の存在意義は大きくなってくる。

しかしながら、組織内外の阻害要因により、これらの連動性は必ずしも即時に実行されない。時間的なずれが生じ、一時的な組織内在庫や、一時的な欠品・品不足が生じることにある。これをできる限り回避するために、中間流通内での調整が行われることになる。これが、動態を生み出すことになるのである。その際に、経営資源の不可分性により、顧客適応からスタートする取引連動と仕入れ適応からスタートする取引連動の二つのパスが想定される。これらの存在は、本研究内では実証データとヒアリング調査に基づき、検証されている。

第二に、日本の流通構造の変化の軌跡を、流通構造変数に基づいて考察した。まず、卸売・小売事業所数の歴史的変化を、成長性の指標として確認した。次に、卸売・小売事業

所あたりの年間販売額の変化を、規模性の指標として、さらに卸売・小売従業員あたりの年間販売額の推移を、生産性の指標として考察した。それにより、一定の時期区分を想定することができた。さらに、卸売業者と小売業者の関係性を確認するため、以下の図１に示されているように、W/R 比率の 50 年分析が行われた。上記の流通構造変化の時代区分は存在する、それ以上に興味ある結果は、W/R 比率は中長期的に見て低下傾向にあり、流通段階における卸売業者の役割は減少してきているということが示されたことである。

なお、使用データは、『商業統計表』1952 年から 2007 年のものである。一部はデータの入手可能性から 1954 年・1958 年からのデータが使用されている。

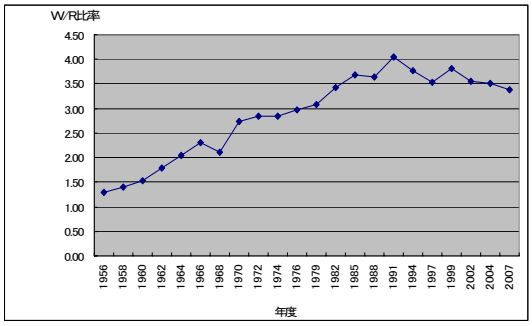

図１：W/R 比率の変化

ここで、データの接続性の問題から、各年次の改正に従ったものに基づく W/R 比率の分析を行った。以下の図２に示されているように、未調整値と調整値とでは、その歴史的推移に全く逆の傾向が現れた。

すなわち、調整値では、1956 年の 1.30 から 2007 年 3.38 へと実に 2.6 倍の増加を示したのである。なお、時期的な動態の区分は同様に確認されている。それは、修正 W/R 比率の増加傾向からピークに達し、減少傾向へ転じる変化と同様である。

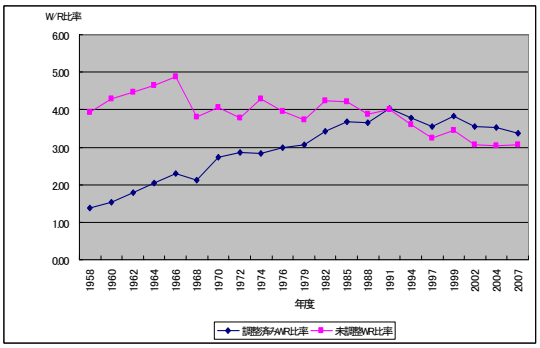

図２：修正 W/R 比率の推移

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

①西村順二（2010）「マクロ視点から見た流通構造の変化に関する一考察」甲南大学経営学会編『経営学の伝統と革新』千倉書房、pp. 305－323。

②西村順二（2010）「CO2 排出量削減対応とサプライ・チェーン・マネジメント」『会計・監査ジャーナル』、Vol. 22 No. 7, pp. 119－126。

③西村順二（2009）「製造卸による小売業展開における競争構造の変化―SPA の源流」石井淳蔵・向山雅夫編著『小売業の業態革新』中央経済社、pp.257－282。

④西村順二（2009）「規模の制約を越えた組織力醸成への原点回帰」『商工金融』第 59 巻第 5 号、pp.1－2。

〔学会発表〕（計 5 件）

①西村順二「統一テーマ　流通のマクロ視点流通構構造の日本的特徴について」日本商業学会関西部会 1 月例会、2011 年 1 月 22 日、大阪市立大学。

②西村順二「統一テーマ　流通産業の中期展望―流通業の環境変化と成長可能性―」日本学術振興会産業構造･中小企業第 118 委員会、下記ワークショップ、2010 年 8 月 30 日、ウエルネスハートピア熱海会議室。

③西村順二「開題　流通・マーケティングにおける市場と組織のゆらぎ」日本商業学会関西部会、7 月例会、2009 年 7 月 18 日、甲南大学。

④西村順二「開題　流通研究における動態性」日本商業学会関西部会 7 月例会、2008 年 7 月 19 日、関西学院大学。

⑤西村順二「卸売企業の戦略グループに関する一考察」日本学術振興会産業構造・中小企業第 118 委員会　第 260 回会議、2008 年 6 月 9 日、商工中金本店。

〔図書〕（計 2 件）

①高嶋克義・西村順二編著（2010）『小売業革新』千倉書房、274 ページ。

②西村順二（2009）卸売流通動態論－中間流通における仕入と販売の取引連動性－』千倉書房、285 ページ。

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）
　　なし

○取得状況（計 0 件）
　　なし

〔その他〕
　なし

６．研究組織
(1)研究代表者
　西村順二(NISHIMURA　JUNJI)
　甲南大学・経営学部・教授
　研究者番号：６０１９８５０４

(2)研究分担者
　　なし

(3)連携研究者
　　なし